





武門
272
卷



醫醫談序



七八月之間。雨集溝澮。皆盈其涸也。可立而待也。何也。以無本也。故君子務本。本立而道生。凡天下之事業。無適而不然也。相州大矢貞吉。與兄春共從余受經義。孜孜汲汲。以夜繼日。頗得家學之要領焉。貞吉旁志醫道。好讀香川秀庵之書。一旦悟儒醫



醫言
一本之義。蹶然。咲曰。善哉。秀庵不我欺也。且加之以吉。益東洞方法。遠沂彥。已二尊之。古議論確實。處方的當。宿學巧醫。亦憚之。但其年未滿二十。或疑其術未熟。余舊患手痛。至於今年。殊甚。不能搦毫子。弟等或恐爲中風。貞吉診而咲曰。於此何有。願爲先生處置。方畧一舉。能拔二豎之巢。

窟。先生請勿疑。余嘗肯曰。諾。貞吉即作大承氣湯數十帖。贈之。每貼如斗。藥品精良。呔咀麤大。姑驚人耳目。取而煮。鼎沸騰湧。雲滿堂。薰徹湯成。膠漆澁苦。不可服。既而謂良藥苦口。我而不知之哉。奮厲勉強。連服二三盃。瞑眩影響。五內潰亂。快利建瓴。上廁無算。往反如織。頻服六七日。胸腹融。

解四肢怠痛。但覺氣力微耳。遂啖肉飲酒。不日復常。精神清爽。試搦毫則懸腕縱橫。鉅細疎密。各得宜焉。於是嶢然而立。訥然呼曰。善矣。貞吉醫事奚論。老少後或遇有疾病者。則薦貞吉診之。其處方無不奏效。盖天稟之所不得也。頃日講學之暇。著醫醫談一編。將鐫布之。來而乞序。取而閱之。其

意雖在折衷於香川吉益二氏乎。至其不可議。則詰窮不假隻辭。况衆醫乎。是以其辭激昂。不能無圭角也。雖然。至間引經義發揮醫道。則以務本爲先。簡明通暢。亦足以主張余學風焉。管仁齋之門出。秀庵學術豐富。識見極高。自處以聖賢儒中之醫。今吾門出。貞吉亦不敢讓秀庵也。若或疑

醫 醫 言 序
余言者。佗日觀貞吉之教。大行而後。知其不夸誕矣。

嘉永癸丑八月下澣

荆山居士日尾瑜



題辭

越人眼ヲ閉シヨリ以來。殆三千年ノ間。皆醫頻々トノ起リ。妄ニ杖ヲフルヒテ無罪人ヲ撻ツテ流シ。人爲之腰ノ疼ル者アリ。手足ヲ折カル者アリ。眼ノ瞽ル者アリ。鼻ヲ傷ツケラル者アリ。甚シキ者ハ。渾身浮腫疼痛シテ。率ニ黃泉ノ客ト爲ルニ至ル。實ニ愍ムベキ也。イテヤ我

天津神ノ開キ。肇メ玉ヒシ

大皇國ハ。

天照太神ノシロシメス所ニメ。復醫方ノ開ケヌベ

キ時至リ。先甲斐ノ徳本隻眼ヲ開キ。其ノ後藤
 良山亦隻眼ヲ開キ。少シク醫道ノ一斑ヲ見ル
 ヲ得タリ。其後京師ノ秀菴香川氏。爛々タル巨眼
 一雙ヲ開キ。恭シク孔孟遺訓ヲ奉ジ。我道モ亦此
 二外ナラサルヲ洞視シ。自稱スルニ聖賢儒中
 ノ醫ヲ以テシ。務テ後進ヲ導シヨリ。真醫ノ道始
 テ明ナリ。最後藝州ノ東洞吉益氏出テ。亦爛々タ
 ル巨眼一雙ヲ開キ。始テ越人ノ言ト仲景ノ方ト
 ヲ見認メ。萬病惟一毒ナリト曰ヒテ。其說ヲ京師
 二唱ヘ。天下ニ有ユル疾病不治ノ症ト云フモノ
 疾病不治ノ症ト云フモノ

アルヲナカリキ。東洞モ亦眼ヲ閉シカバ。其男南
 涯及高弟村井椿樹カ如キモ。又隻眼ヲウシナヘ
 リ。況ヤ其餘ノ門下ヲヤ。誰カ隻眼全ウノ萬病一
 毒ノ旨ヲ見ルヲ得ニ。於是醫道日衰。醫方月敗
 レ。今世ハ復盲眼トナリ果タリ。貞吉不肖ナリト
 雖モ。真醫ノ道衰ヘ疾醫ノ方敗レタルヲ悲ミ。身
 命ヲ醫道ニ拖テ。苦心焦思ヒソカニ其蘊奧ヲキ
 ハメ。皆醫ノ痼疾ヲ療ゼントス。古人不言ヤ。人皆
 可以爲堯舜トア。二盲醫ヒトリ不治ノ症ナラン
 ヤ。唯恐ラクハ瞑眩ノ甚シキニ不堪メ。其藥ヲ傳

ル者無カラシム。然リト雖凡。棄テ藥ヲ投ゼザ
ル寸ハ。我眞醫ノ誠意ニ背キ。彼モ亦廢人ノ稱ヲ
甘ンジ。天命ヲ蔑如セン。トテ憐ミ。硯ニ感激ノ淚
ヲ湛ヘ。憤悻ノ筆ヲ染テ。此小冊子ヲ艸セシハ。皆
醫ノ眼藥其効ノ著シキヲ知ラシメンガ爲ナリ。
今其槩略ヲ云ン。人々道義ヲ見ル。ト明カナラザ
ル。眼ニ之ヲ傳レバ。能君臣ノ義。父子ノ親。夫婦ノ
別。長幼ノ序。朋友ノ信アル。トテ分明ナラシム。又
眼ヲ患フル。ト無人トイフトモ。朝夕傳レバ。此藥則ア
ルヒハ癩病アルヒハ勞瘵。顛狂ノ如キ。凡テ血脈

傳。染ノ病根ヲ明察シ。其病根ヲ拔ノ法方ヲ悟得
ル。ト古ノ離婁紀昌ガ秋毫ノ末ヲ見ルヨリモ易
カラシム。サレド。此方ハ原來旨醫ノ痼疾ヲ攻撃
シテ。復明セシメントスル程ノ激劑ナレハ。傳ル
人必耳ノ痛ヲ覺テ。煩悶懊惱スル。トアルベシ。是
藥其病ノ肯綮ニ中リテ。瞑眩セルナリ。恐レズノ
頻ニコレヲ傳ケハ。漸々ニ復明シ。醫道ヲ見ル。ト
精審ニメ。妄ニ杖ヲフルヒテ人ヲ撻ノ謗ヲ免ル
ベシト云フ。ト爾リ。維崑

嘉永六。歲次癸丑。秋七月中旬。大夫貞吉

大矢貞吉 誌

奉天 袁盤

貞吉

醫醫醫談 一名眼藥編

大日本 相模御民大矢貞吉奉臨 著

四時ノ運行スルモ。日月ノ更照ラシ玉ウモ。皆

天神ノ御威靈ニマシノ、テ。萬物ヲ化生シ此民ヲ

育ナヒ壽ナガ、ラシノンガ爲ナリ。サレバコソ。

中庸ニモ誠者天之道也トハ云ケレ。夫同四時ノ

運行スル所。同日月ノ照ラシ玉ウ所ハ。中

中國モ外國モ。父タリ子タリ兄タリ弟タリ。固ヨリ

同土界ナレバ。凡此土ニスム民ハカケマクモ畏

モ。皆

天神ノ生マス所ニシテ直ニ

天神ノ御威靈ヲ稟ケテ之ヲ性トナス。故ニ書ニハ上帝降衷于下民。若有恒性トイヒ。詩ニハ天生烝民。有物有則。民之秉彝好是懿德トイヒ。中庸ニハ天之命之謂性。率性之謂道トイヘリ。カクアレバ凡民タル者ハ各其天性ノ真心ヲ推充テ化育ヲ賛スケテ以テ其父タル

天神ノ御威靈ニ奉ゼズンバ有ベカラズ。蓋政教ヲ施コシ賢オヲ用ヒ。民ヲ至安ノ國ニ育ナウ者ハ君ナリ。疾病ヲ除キ夭死ヲ救ヒ。民ヲ至安ノ世ニ

壽ナガウセシムル者ハ鑿ナリ。故ニ君ト鑿トハ并ビ立テ。

天神ノ御威靈ヲ奉シテ其化育ヲ賛クル所以ノ長ナレバ其職慎マズンバアルベカラズ。必先ソノ性ノ真心ヲ推充テ能萬物ノ性ヲ盡シテ而後ニ始テ君トナルベク鑿トナルベレ。中庸ニ所謂唯天下至誠能為盡其性能盡其性則能盡人之性能盡人之性則能盡物之性能盡物之性則可以贊天地之化育トハ此レガ為ナリ。鑿タル者ヨク此真心ヲ失ハズレテ病源ニツナキノ義ヲ明ニシ藥

能ヲ精シウレ。方意ヲ審カニシ。謹テ病者ニ對ス
ル寸ハ。凡所有疢痾痼疾。不治ノ證ト云者アル
ナシ。如此。然後初ノテ以テ化育ヲ贊クベシ。
甚矣哉風俗ノ衰ロヘタルヲ。我

大皇國ノ人スラ。無大無小。無貴無賤。佛ノ糞土ニ泥
レシヨリ。醫人モ亦其風ヲシタヒテ。

病ノ因縁ヲ云ヒ。過去ヲ論シ未來ヲ
説キ。聖人ノ道ヲ奉ズルヲ知ラズ。却テ夷狄ノ
俗ヲ學ビ。カレカ餘唾ヲ舐リテ。自憊シトス。嗚呼
悲イカナ。經ニ不云ヤ。非先王之法。服不敢服。非先

王之法。言不敢道。非先王之德行。不敢行ト。彼林鳳
岡。山崎闇齋。向井元升。後藤艮山。が如キ。能其肯ヲ
明ニシ。能其非ヲ悟リ。忽ニ改タメ
テ。

大皇國ノ正風ニ復シタルニ非ズヤ。

或問テ曰。子ハ常ニ不治ノ症ナシト云フ。然レ共
癩ノ如キハ終ニ治スベカラズ。答テ曰。固ヨリ萬
病一毒ナレバ。癩ノ毒トテ別ニハナシ。豈不治ノ
症ナラシヤ。徳本ノ醫ノ辯ニ。人ノ身ハ上。下ヌキ
トホシ也。上焦ヨリ入レハ中焦ニテ化シコシラ

へ。下焦へヤル水汁ヲハ小便ニ送り。漉糟ヲハ大便ニ送り下シテ。サハリモナク腹中ニテ剋化シ下ス寸ハ。何ノ病モコ、口ヨク。身モ熱セス。天氣ノ雲モナクハレテ。日月ノ光モクラカラヌヤウ也。ト云レタリ。胸腹ニ毒生スルトキハ。食物ハ云ニ及バス。肉中ヲ行ル血脈循環アシク。或ハ胸ニ貯へ。或ハ腹ニ満チ。手足ニオヨヒ痛ヲナシ。或ハ不仁トナリ。顔色支體アルヒハ赤ク。或ハ黒ク。ノルヒハ紫トナリ。歿血トナリ。遂ニ肉腐レ壞亂スルニ至ル。夫ノ川ヲ觀ヨ。晝夜トナク支リナク流

ルレバ。冬ト雖モ凍ラス。夏ト雖モ熱セス。大雨大水ト雖モ忽チ常流ニ復スル也。若川下ニ泥沙ツモル寸ハ。水逆行濫溢シテ。或ハ瀦トナリ。冬ハ凍リ。夏ハ熱シ。汗濁ノ水トナリテ。孑及ナトヲ生ジ。其害少カラズ。其泥沙ヲ除ク寸ハ。忽水オチテ常流ニ復スル也。然ルヲ速ニ水ヲ治メントテ。泥沙ヲ除キモセス。妄ニ隄ヲ決リテ瀦ヲ流シ去ントスレバ。人カヲ勞ラシ。田圃ノ土ヲ流シ。他ノ地面ヲ荒シ。果々諍亂ナトヲ引起シ。及リテ大害ヲ招ク本トコソハナレ。水ノ治ル爲ニハ曾テナラヌ

ナリ。故ニ病ヲ治セントナラバ。腹中ノ毒ヲダニ
除ケバ。身スキ通シニナリテ。血ノ循環ヨクナリ
テ。諸症皆愈ルナリ。世醫本ヲ治スルコトヲ知ラス。
破血ナドスルハ。泥沙ヲ除コトヲセス。隄ヲ決リ瀆
ヲ流サントスルニ同ジ。白圭曰。丹之治水也。愈於
禹。孟子曰。子過矣。禹之治水。水之道。是故禹以四海
爲壑。今吾子以隣國爲壑。トイヘリ。病ヲ治スルモ
白圭カ如クスレハ。後反テ大害ヲナス。禹ノ如ク
スレハ。病マツタク治スルナリ。
或問テ曰。他病ハ其理上指ニテ治スベシ。癩

ハ父母ノ腹中ヨリ受レ毒ナレバ。渾身皆惡血。此
ヲ以テ治スベカラズ。答テ曰。甘云フ人モ有レド
モ。是ハ萬病一毒ノ道理ニクラキ故也。モレ此ヲ
父母ノ遺毒ナリト云ニハ。唯癩ノミニアラズ。
所謂積聚留飲ノ類。大ナルモ小ナルモ。持病ト稱
スル者十ガ七八ハ皆遺毒ナリ。夫疾病ノ人ニ在
ル。其本源ハ必腹中ニ在リ。其毒ノアル母ノ腹中
ニ醸シナレタル體ナレハ。赤子ノ腹中ニハ毒最
多シ。是ヲ胎毒トス。故ニ我門未ダ乳ヲ哺ガル先
ニ甘連大黃湯ヲ飲シムルナリ。昔者東洞延享丁

卯夏六月十三日。其兒名ハ璿トイヘルガ生レシ
トキ。乃チ甘連大黃湯ヲ飲シム。十五日ノ夜半ニ
至テ。唯藥汁ノミヲ下レテ他物ナキヲ見テ。則毒
既ニツキタリト云テ。乳ヲ飲シメタリトゾ。如此
遂テ飲シムル寸ハ宜シケレ共。何レノ家ニテモ
毒ノ盡ルマテ飲セヌ故。胎毒腹中ニ遺リテ凝結
シ。身ガヌキトホシニナラヌ故。循環アシクナリ。
種々ノ病ヲ生ズ。甚シキ者ハ少シモ循環スルコ
能ハザルヲ以テ。終ニ不仁トナリ。灰血トナリテ。
其體壞爛スルニ至ル。是故ニ其根本ヲダニ除ケ

バ。何レノ病ニテモ治セスト云コナシ。若渾身皆
惡血ナリト雖モ。腹中一點ノ凝結ナケレバ。血ヨ
ク肌膚ヲ循環シ。死血トハナラヌ也。如何ナル濁
流ニテモ。川下ニ泥沙ノ支ヘダニナケレバ。逆行
濫溢スルコナク。田圃ヲ流スコナク。瀦ノ出來ル
コナク。子又ノ生ズルコモナシ。況ヤ彼癩ヲ患ル
人ノ其症未ダ發セザル前ニ。其肌膚ヲ刺ニ黑血
出ルニ非ス。紫血出ルニ非ス。清血出テ常人ト異
ナルコナシ。追々腹中ノ汗穢積ルニ隨テ。惡血ト
ナルコ益明ケシ。人々ヒトシク天ヨリ降ス所ニ

シテ。別種アルニ非ス。腹中ノ毒ヲダニ除ケバ。何
レカ無病ノ全人トナラサルヲ有ニヤ。呂氏春秋
云。流水不腐。戶樞不蠹。動也。形氣亦然。形不動則精
不流。々々々々。則氣鬱々。處頭則為腫。為風。處耳則為
聾。為聾。處目則為瞶。為瞶。處鼻則為軌。為窒。處腹則
為張。為疝。處足則為痿。為履。トイヘリ。醫人此言ヲ
玩味メ。余ガ説ノ強ガルヲ觀ツベシ。

或問テ曰。子東洞能其兒璿ガ胎毒ヲ除ケリトス
ルカ。此兒四歳ノ八月天行痢ヲ患ヒ。又十月痘ヲ
發シ。此月ノ十九日ニ没セリト云ヘリ。然ラバ則

此兒ノ毒盡ク除ケリト云ベカラズ。吾甚ダ其説
ヲ信從スルヲ能ハズ。答テ曰。否。此兒胎毒盡ク除
ケリトス。故ニ常ニ何事ナク壯健ニ生音セリ。然
ウシテ後ニ患ヒタルハ。是毒ノ新ニ發スル者也。
先ノ遺毒ニハ非ルナリ。其歿スルハ命ナリ。如之
何。唯病ノアル所ヲ察シ。毒藥ヲ投ジ。人事ヲ盡メ
天命ヲ俟而已。孟子曰。盡其道而歿者。正命也。トハ
此ノ謂ナリ。且夫病ヲ療ズルハ田ヲ耘ルガ如シ。
艸根ヲ盡ク除ケリトテ。其マ、舍オケバ。又荒田
トナルナリ。故ニ善耕田者ハ艸芽ノ未萌ガハル

二除キ。而ノ糞培ス。故ニ田常ニ艸ナク。稻麥漠々
トメ盛ナリ。既ニ艸根ヲ除ケバ。又生ズルト雖モ。
之ヲ除ク一ハ至テナシ易シ。故ニカノ瘠ガ腹中
塊ヲ結ビタレ共。二時許ニメ解スト云ヘリ。是先
ニ能甘連大黃湯ヲ飲シメタル驗也。庸醫ノ病ヲ
療ズル者ハ。譬バ其艸根ヲ除ク一ヲ求メズ。秋冬
至テ自ラ枯ルヲ僥倖スルガ如シ。良醫ハ則シカ
ラズ。唯艸ノアル所ニ就テ其根ヲ除キ。而メ糞培
スル一ヲ務ル者也。若ソレ如此。而メ不實一アル
ガ如キニ至テハ命也。如之何人ノ死ニ於ルモ亦

然リ。醫ノ然ラシムルニハ非ル也。然レトモ是良
醫ノ一ノミ。庸醫ノ治ヲ誤リ人ヲ殺シ。此言ヲカ
リテ口實トスルガ如キハ。實ニ天誅ヲ畏レザル
者ナリ。故ニ曰。君子居易以俟命。小人行險以徼幸。
ト云ヘリ。慎シマザルベケンヤ。
或問テ曰。子天下ノ病人ヲ盡ク療治セシニ非ズ。
多ノ中モハ如何ナル難症有ンカモ知レ難シ。決
メ不治ノ症ナシトハ云ベカラズ。答テ曰。

疾病

ノ人ニ在ルハ。猶國ニ寇アルガ如シ。假令イカナ
 ル難症タリ共。治スルヲ能ハサルノ謂レナシ。然
 ウメ之ヲ治スルヲ能ハサル者ハ。醫ノ拙キナリ。
 且夫醫オノレ拙ウメ治スルヲ能ハサル病者ア
 リ共。其罪ヲ難症ニ歸スルヲ勿レ。決メ不治ノ症
 ニ非ズ。主藥主治未ダ明ラカナラズ。診察未ダ審
 ラカナラズ。方症相的セザルナリ。若夫某ノ方某
 ノ症。カクノ如ク相的メ。然ウメ治セズ。是スナハ
 手不治ノ症ナリトイハハ。モトヨリ自暴自棄ノ

人ノミ。可王夫云難症未嘗不治也

醫ノ疾病ヲ攻ルモコレ
ニ同シ。道ヲ直ウシ法ヲ正ウシ。穀肉菓菜ヲ甘美
ニシ。毒藥ヲ精良ニシ。診察ヲ審ニシ。主藥主治ヲ
明ニシ。進退變ニ隨テ宜キヲ得ハ。治セザル病ヲ
ルナシ。之ヲ治スルヲ能ハサル者ハ。醫ノ拙ナ
キナリ。

或問テ曰。王充云。微病恒醫皆巧。篤劇扁鵲乃良。ト

云リ。然ルニ子ハ醫ヲ行フ。小病ヲ診スルヲ難シ
ゾ。大病ニ至リテ却テ易シトス。殆ンド戻レルニ
似タリ。後世ニ法則タラント欲スル者。不宜如此
也。答曰。王充ハ固ヨリ醫術ヲ知ラザレバナリ。已
貞吉。黃口乳臭。菽麥ヲダモ辨ビスト雖モ。幸ニ東
洞ノ後ニ出テ。其力ニ因テ。越人ノ法仲景ノ方ヲ
看破シ。萬病一毒ノ義ヲ審カニシ。切脈望色聽聲
寫形ノ丁ヲ待ズ。病ノ所在ヲ知リ。其主藥主治
ヲ明ニシ。其症ニ隨テ其病根ヲ拔ノ術ヲサトリ。
而後病容ヲ診スルニ。大病ハ療ジ易ク。小病ハ却

テ難キヲ知レリ。何シトナレバ。大病ハ毒大也。故ニ腹ヲ診スルニ。毒ノ形状ヨク知ラル、ナリ。其形状明ニ知ラル、寸ハ。方ヲ所スルヲ誤ラズ。恰モ養由基ガ柳葉ヲ射。市南宜僚ガ玉ヲ弄スルガ如ク。百ガ百ナガラ失スルヲ有ナシ。小病ハ毒小也。故ニ腹ヲ診メモ毒ノ形状或ハ明ニ知レ難シ。明ニ知ラレバ。方ヲ處スルヲ能ハズ。如何カメ病治スルヲ得シ。古今醫人小病ヲ易ク思ヒ。大病ニ至リテ難シズル者。是ソノ診法ヲ知ラサルガ故ナリ。其治シ得タリト思ヘル者ハ。我が

カニ非ズ。病ノオノツカラ治スルノ期ニ偶中シタルナリ。何ゾ小病ノ毒ヲ易ク診シ得ル術ヲ以テ。大病ノ毒ヲ診シ得サルノ理アラシヤ。明以テ秋毫ノ末ヲ察ルニ足テ。輿薪ヲ見ズト云ハバ。其孰カ之ヲ許サンヤ。吾コ、ヲ以テソノ診法ヲ知ラストス。滔々タル者天下皆是ナリ。我其如此ヲ歎ノ。慨然トメ奮起シ。贊化ヲ以テ爲己任。燃掌錐股ノ誠心天ヲ貫キ。法已ニタバシク。方ステニ精シ。豈我處スル所ノ方ニ於テ。後世ニ法トナラザル者アラシヤ。我必法ヲ後世ニ貽サント欲ス。若

夫診察ノ分明ニシガタキ者アラハ。焉ゾ強テ方
ヲ處シ。毒藥ヲ投ズルコトヲセンヤ。無乃辭セン而
己。

太倉公ハイニシヘノ亦謂良醫ニシテ。其勤豈三
折ノミナランヤ。猶時々失之。マタ不能全ト云ヘ
リ。然ルニ子ハ醫ヲ行フコト未ダ數年ナラズ。且從
テ學ビシ所モアラス。何ノ神才アリテカヨク難
症ヲ治スルノ易キ。若實ニ易ク得ベクンバ。何ゾ
昔ヨリ良醫ノ術ヲウル者數人ノミニ過ガルヤ。
答曰。何必シモ從入而後ニ學ブコトヲセン。ソレ道

ハ大路ノ如シト云ヘリ。サレバ其甘シテ行ベキ
方ヲダニ目ヲ付テ。主藥主治ヲダニ明ニスレバ。
實ニ易得者ナリ。天下ノ醫人ミナ青盲。俛々乎不
知所適。ソノ本ヲ正サズ。ソノ末ヲ訊ハス。只治療
ヲナサントス。是近ヲ舍テ遠ヲ求メ。易ヲ舍テ難
ニ求ム。所謂詭遇ノ獲物有ンコトヲ求ルノ類ニノ。
終ニ得ル一能ハサル也。東洞曰。方者有主藥主治。
知其主藥主治。而用之。則爲古今之法。否則雖治不
免仲景非其治之議也。又曰。仲景之爲方也。有法猶
兵有法。如其先後與取舍存於其人。此之謂略コレ

醫言
主藥主治ヲ舍テ。他ニ法アルニ非ルコト明ニス
ル也。故ニ武藤氏モ世醫主藥ヲ外ニシ。一方ノ妙
用アリト云ハ。吾門ノ則ニ非スト云ヘリ。其本亂
而末治者否矣。イマダ主藥主治ヲ知ラズ。馬ン
ゾ治療ヲ施スコトヲ得ンヤ。苟モ主藥主治ヲ知ラ
スシテ。治療ヲ施ス寸ハ。タトヒ百病百ナガラ治
ス共。詭遇ノミ。後世ニ法スルニ足ガル也。詭遇シ
テ獲物アルハ。猶御者ノ愧ル。况ヤ贊化ヲ任ト
スル者ニ於テヤ。夫道若大路然。豈難知哉。寒往
ケハ暑來リ。月盈レハ則チ昃ス。何ゾ必シモ凝然

トシテ從人而後ニ學ブコトヲセシ。孔子曰。無適也
無莫也。義之與比。我豈神才アラニヤ。畧コ、ニ見
アルノミ。雖然。先微東洞。我亦三折臂。

世ノ老成醫ノ疾病ヲ治スルコト能ハザル者ハ。病
因ヲ問尋子。及ヒ病名ニ拘ルヲ以テノ故ナリ。病
因ヲ尋子テ治療ヲナサントスルハ。其先祖ノ言
行ヲ問テ。子孫ヲ所置セントスルカ如シ。タトヒ
先祖ガ善人ナレバトテ。其子孫ガ惡人ニテハ舉
用シ難ク。先祖ガ惡人ナレバトテ。其子孫ガ善人
ナレバ舉用スルニ難ナシ。治療モ亦カクノ如シ。

醫 故ニ病萬變スレバ藥モ亦萬變ス。前日ノ病今日ノ治療ニカマヒハナキナリ。又聊病名ニ拘ルノ非ヲ辯セン。今コ、ニ二人ノ權兵衛ト云者アラシニ。其名ハ同ウノ其人ハ異ナリ。其人異ナレバ。才能モ亦異ナリ。故ニ人ヲトル者ハ。才能ヲ先トス。若シ名ノミニヨリテ取ベクンバ。無筆ノ權兵衛ニ書役ヲイヒツケ。盲人ノ八兵衛ニ門番ヲ云ツクルガ如キ錯誤ヲ致ノ。人ノ啖ヲトルベシ。病名ニ拘ルモ亦カクノ如シ。故ニ志ヲ先ニメ名ニ拘ラザレバ。人ヲ使フニ才能ヲ先トスルガ如ク。

治療ヲ誤ルト云フハ必ナキ也 傷寒論云壞病桂枝不中與也觀其

脈症知犯何逆隨症治之是雖非病因然ルヲ古書豈非主名與因乎雖然彼書言亦何咎

醫言ニ爲則曰嘗治嗜酒人之病諸症盡治苦煩皆止。而猶未復故正氣昏盲如安睡於是無術可施無奈之何果死則吐濁水數升矣。因悟教飲過酒之人若肥滿充盈非肉而腫也。爾後療酒客顯症治而後用紫圓必吐黑水濁水。羸瘠日甚而壯健日愈也ト云ヘリ。是病因ヲ尋ル也。病名ニ抱ハル也。吁東洞ニメ斯言ヲナス者ハ何也。

桂枝麻黃固ヨリ汗劑ニ非ズ。瓜蒂吐劑ニ非ス。大

或問云。紫圓ヲ用フレバ。吐瀉シテ治ス。此等ノ言
 ニヨリテ之ヲ觀レバ。東洞ハ。某ハ汗劑。某ハ吐劑。
 某ハ下劑。某ハ和劑ト。衆藥ヲ四二分チテ。療治セ
 ラレシカ若シ。治法ヲ分チテ四トセバ。何ゾ萬病
 唯一毒ト云フヲ得ンヤ。宜ナル哉。村井氏ノ一毒
 ヲ誤ル_下。事詳。今ノ醫人ノ汗吐下和ヲ疾醫家ノ
 定法トナスモ亦ウベナリ。吁。膠柱鼓舟ノ謗。東洞
 自ラコレヲナセリ。豈其他ヲ咎ン。
 穀肉菓菜必シモ精ヲ養フト云ニハ非ルナリ。其
 所嗜ノ穀肉菓菜ヲ食ヒ。口ニ甘シ_ク。而後ニヨク

養ヲナス也。産後譟_ニ寢臥セシメテ。體ヲ補フト
 云ニハ非ル也。臥_トヲ好ム者ヲノ之ヲ臥セシメ。
 而後ヨク補ヲナスナリ。今此ニ人アランニ。性甘
 味ヲ嗜マズ。而メ甘麥大棗湯ノ症ヲ患フ。乃チ甘
 麥大棗湯ヲ爲_ステ之ニ與フルニ。瞑眩吐瀉メタチ
 マチ解ス。又此ニ人アランニ。性肉ヲ嗜マズ。而メ
 羸瘦ヲ患フ。醫養ハズンハ有ベカラズト云テ。強
 テコレニ肉ヲ食ハシムルニ。嘔メ不能食_マス。ク
 羸瘦ヲ加フル者アリ。故ニ病ヲ攻ルニハ。嗜_ト不_ズ
 嗜_トヲ問ハズ。唯の方コレ投ズ。精ヲ養フニハ。穀

肉菓菜ヲ擇ハズ。唯嗜物コレ與フ。何ゾシフルト
ヲセシ。一醫人婦人産後臥トヲ好マザル者ヲメ。
強テコレヲ臥サシムルニ。忽逆上メ歿ス。又起ル
トヲ好ザル者ヲメ。強テ起シム。亦歿ス。故ニ凡病
人臥トヲ好者ハ之ヲ臥サシメ。起ルトヲ好者ハ
之ヲ起シム。亦何ゾ強ルトヲセシ。精ヲ養ヒ體ヲ
補フ所以ノ者モ。亦如是而已。

烏頭ヲ丸散ニスルニ。或ハ水ニ漬シ。或ハ火ニ炙
リテ用フル者尤多シ。是毒ノ峻烈ニメ瞑眩ノ多
キヲ懼ル。故ナリ。然ラハ何ソ品ヲ減メ用ヒズ

シテ。却テ其藥毒ヲ殺ントス。譬バ名刀ノ利ヲ懼
レテ。淬ヲモトメ鈍刀トナラントヲ求ルカ如シ。
愚昧ナルト莫大焉。如此ニメタバ。目方ノミ分量
考ニ合セタレバトテ。何ノ役ニモ立ヌ也。子曰。工
欲善其事。必利其器。ソレ藥ハ固ヨリ毒ナリ。其毒
ソギ去テ。其能イツクニカ有ル。東洞曰。製而倍毒。
則製之去毒。則否トコソ云レタレ。其毒ヲソゲヨ
トハ云レヌ也。書云。若藥弗瞑眩。厥病弗瘳。ト云ヘ
リ。若藥品不精ナレバ。方症のセリト雖氏。瞑眩セ
ズ。病瘳ズ。分量正シカラザレバ。方症のセリト

雖モ亦瞑眩セズ。病亦瘳ス。是亦的方トハ云ヒ
難シ。素問曰。婦人重身毒之何如。曰。有故無殞。サレ
ハ。老少虛弱ナドヲハ問ハズ。其症ヲ見タラシニ
ハ。如何ナル藥品ナリ。疴毒ヲ殺ス。分量ヲ減セズ。
シテ用ヒサレバナラヌ也。一杯ノ水ヲ以テ一車
薪ノ火ヲ救ハントスレバ。唯益ナキノミニ非ズ。
反テ害之ニイタル。
親ニ事ツリ。君ニ事ツル者ハ。則人ノ情コレ治國
平天下ノ源ニシテ。即是我醫道也。

神道也。儒道也。古今醫人此義ヲ明ニスル者一人モ

アルヲナシ。獨我

大日本高ク明カナル

神靈ノ威徳ニ因テ。先秀庵香川氏此ニ見アリ。慨然
奮起。自稱一本堂。聖賢事親事君ノ教ヲ奉メ。以テ
真醫ノ道ヲ後世ニ傳ヘ。永ク醫人ノ痼疾ヲ醫セ
ントス。方此時也。立言シテ曰。歷々堂々。聖賢之徒。
反頼異端邪說。脩身治人。縱使變成岐伯扁鵲。固非
所望トテ。遂ニ孔孟ヲ祖述メ。以テ教道ノ曰。夫醫
也者。即是今日。々々。用人々事親事君。修己治人之大
節目也。之ヲ扁鵲ニ祖述セント欲スルニ得ズ。コ

レヲ仲景ニ祖述セント欲スルニ得ズ。コレヲ素
靈本草等ニ憲章セント欲スルニ。皆孟浪無稽ノ
書。一モ事親事君修己治人ノ事ニ及ブ者ナシト
テ。終ニ自我作古真醫ノ道ノ本原祖述スベキ者。
扁鵲仲景素靈本草等ニアラズ。孔孟ニ在リテ
知ラシム。然ルヲ東洞之ヲ駁メ曰。夫作者孔子猶
不自處而況望孔門者乎。又曰。自我作古譬如不用
霧海南針夜途北斗取諸其臆爲正可不謂妄哉。ト
アサケレリ。噫コレ何ノ言ゾヤ。香川氏ノ所謂作
古ト云者ハ。我ヨリ道ヲ作テ古ヲナスト云ニハ

非ル也。醫人孔孟ノ道ヲ祖述スルノ古ヲナスト
云ルナリ。臆ニ取ニ非ル也。即孔孟ニ取也。何ノ妄
ナルヲカ之有ニ。孔孟所傳ノ事親事君修己治人
ノ道ニ由ラズ。徒ニ扁鵲仲景素靈本草等ニノ
ミヨリテ言ヲナス者ハ。本末ト先後トヲ知ラザ
ルナリ。此等ヲコソ妄トハ云ハメ。何ゾ香川氏ヲ
云ニ。古ニ云ク。物有本末。事有終始。知所先後則近
道矣。トイヘリ。思ハサルベケンヤ。

惠美氏曰。誠一以病者則胸中自仲景生焉。向書
書中自仲景生焉。又曰。有能一日用其力於仁則何

人不爲仲景哉。トイヘルヲ。東洞又コレヲ駁メ云。
夫誠者天地鬼神之神德也。不可以爲教也。又云。誠者
自然之德。言不勉而中。不待勉強也。用力於仁。勉強
也。ナト云リ。噫コレ何ノ謂レゾヤ。天下ノ人ヲメ
誠ノ心ヲ失ハシメン者ハ。必此言ナラン。悲ヒカ
ナ。余嘗テ經義ヲ荆山日尾先生ニ受ク。先生ノ學
風專ラ誠ヲ以テ本トス。故ニ其說ヲ聞ニオイト
ハ則熟セリ。今其萬分ノ一ヲ舉テ。東洞ガ評妄ヲ
辨ゼン。モシ誠ハ天地鬼神ノ德ナリ。以テ教トナ
スベカラズト云ハ。子思孟子ノ誠者天之道也。

誠之者人之道也。トノ玉ヘルハ。教ニアラズ。何
ゾヤ。所謂天之道トハ。天命之謂性。トイヘル者ニ
メ。稟受ノマ、少クモ私ヲ加ヘズ。公正平直ナル
者ナリ。誠之トハ。率性之謂道。ト云ル義ニメ。其天
ヨリ命ジ賜リタル公正平直ナル者ヲ。其マ、ニ
行ヒ。片時モ怠レヌヤウニ心ガクルコナリ。是ヲ
人ノ道トイフナリ。所謂人之道トハ何ゾ也。即仁
也。孟子曰。仁者人也。此言味ヘ見ルベシ。其道ヲ脩
ルト云ヒテ。取シメ整テ。人倫ニ施ス。之ヲ教ト云
フ。ソレ故人タル者。一日モ誠ヲハナレテ五倫ノ

道立ト云フナシ。道也者。須臾不可離也。トイヒ。君子終食之間無違於仁。トノ玉ヒシモ此事ナルヲ知ラズ。不可以爲教。ト云テ可ナランヤ。且ツ誠者自然之徳云云ト云ヘルモ。經義ニ踈漏ナルノ過也。所謂誠者不勉而中。不思而得。從容中道。聖人也。ト云ヘルハ。其誠が不勉ノ道理ニ中リ。不思而道理ヲ得テ。ユツタリトノ。道ニ中ルハ即チ聖人也。ト云フニテ。凡人ノ勉テ之ヲ誠ニセントスルが如キ者ニハ非ザルヲ云ヘル也。サレバコソ。下ニマタ誠之者ノヲ説テ。誠之者擇善而固執

之者也。トハ云ケレ。モシ誠ハ從容トノ中道。聖人ナラテハ無キ者ノ様ニ心得ナバ。世間無限ノ人。聖人ノホカ天カラ受得タル性ハナシト云ニカ。性ハ皆天ノ誠ヲ受得タル者ナレバ。聖人豈人ト異ナランヤ。孟子不言乎。堯舜モ人ト同キノミ。唯盡スト盡サバルト而已。故曰。博學之。審問之。云云。果能此道矣。雖愚必明。雖柔必強。トイヘリ。苟モ此ニ明ナラズノ。口ニ任セテ誣罔ヲナス。何ゾ上醫ノ事ヲ窺フニ足ンヤ。古人不言ヤ。上醫々國。其次救人ト。タトヒ國ヲ醫スルハ能ハズ。臣。豈聖賢

明教ノ源ヲ誣罔シ。君子醫ノ道ヲ塞グトナスベ
ケンヤ。吾不忍聞之。論辨コ、ニ及ブノミ。三伯ガ
言ノ如キハ。實ニ君子醫ノ心ヲ得タル者ト謂ツ
ベシ。

醫事或問ニ云。聖人ノ道ノ絶タルハ孟子荀子
ナドヨリ始ル。既ニ論語ニ。子貢曰。夫子之性與
天道不可得而聞也。子貢スラ得テ聞ベカラズト
云ルヲ。荀子ハ性惡トイヒ。孟子ハ性善トイヒ。
各常言ニメ説ル故。終ニ氣ノ穿鑿ハジマル。性ト
天道トハ造化ノ事ニメ。人事ニアラズ。シカルニ

之ヲ説ユエニ。終ニ聖人ノ道絶タル也。ト云ヘリ。
嗚呼何ゾ忌憚ルト無ノ甚キヤ。所謂聖人ノ道ハ
即人間日用ノ道ニメ。君臣父子夫婦兄弟朋友ノ
中ニ行ル、者也。モシ此道絶タラニハ。天下常
闇ト成テ。政道一日モ立ベカラズ。東洞オノレ此
太平ノ餘澤ヲ被リナカラ。何ヲ以テ聖人ノ道絶
タリトスル。嗚呼何ゾ忌憚ルト無ノ甚也。東洞只
醫道ヲ誣ヒ。醫法ヲ罔ルノミナラズ。更ニ聖言ヲ
誣ヒ。天道ヲ罔ルニ至ル。夫性ト天道トハ。道ノ根
源ニメ。孝悌忠恕彝倫ノ由テ生スル所ナレバ。夫

子必妄リニ之ヲノ玉ハズ。其ノ玉フヤ。幽妙深遠
ニメ。衆人ハコレヲ聞ズ。聞ザルニアラズ。耳ニ聞
ケ厄心ニ會得カテスルスルヲ能ハヌユエ。猶不聞トオナ
ジヲナリ。子貢コ、ニ感ズル所アリテ。夫子ノ文
章トテ。徳ノ發見メ威儀ノ御容子ガラ。文辭ノ上
ニアラハレタルハ。且タ見モシ聞モシヌベケレ
ド。性ト天道トヲノ玉フハ。聞テモ。トクト吾腹ニ
オトシ著テ。深意ヲ自得スルハ難イ。千ヤト云
テ。ウカトメハナラヌソト。聞人ニ心ヲツケタル
詞ナリ。其ヲ只不可得而聞也ト云ヘルモ。不得聞

也。ト云ヘルモ。一ツコニ心得ルカラ。古來ノ説ト
モ皆誤レリ。況ヤ東洞ヲヤ。雖然辨破セズンハ必
人ヲ誣ン。吾コレヲ師ニ聞リ。所謂不可得而聞也
ノ得ハ。自得ノ得ニメ。實字ナリ。トツクリト吾ガ
物ニメ腹ニ落シ著ルヲ云フ。不可得聞ノ得ハ。得
失ノ得ニメ。虚字也。聞コガ得ラレヌ也。ソレ故ニ
不可得而聞ト。不得聞トハ。大ナル差別アリテ。一
ツコニハナラヌゾカシ。今遠キ者ハシバラクオ
キ。孟子ニ取テ之ヲ證セン。云ク。居下位而不獲於
上。民不可得而治矣。トアルモ。タ、不得治トアル

評林本
得下有
而字

トハ、カハリテ。民ヲ十分吾手ニ入テ治ムルコ
ハナラヌト云フ義ナリ。又云ク。語云。盛德之士。君
不得而臣。父不得而子。トアルモ同例ニテ。不得臣
之。不得子之。ナド有トハ別ニテ。吾物チヤト取キ
リテ。自由ニハセヌト。道理ノ上カラ云タル言也。
凡テ古書ニ不得而云云ト使用セル得ノ字ハ。皆
吾物ニシオホセル意ヨリ轉ノ。十分ニトモ。又ハ
身ニ引受テナド氏譯ノヨク通ズ。然ルヲ後ニハ
誤用多シ。惑フコナカレ。漢書。晁孟。兩夏候。京翼。李
傳贊ニ。論語ノ文ヲ引テ。不可得聞ニ作リテ。而字

ナキ者ハ。大ナル誤ニテ。後人ノ甘カシラコナル
ベシ。夫子曰。人之生也直。又曰。天何言哉。四時行焉。
百物生焉。天何言哉。ソレ人道ノ至レル。天道ト一
致ニメ。忠恕ノ極レル。至誠ニ歸ス。所謂誠者天之
道也。誠之者人之道也。トハ是也。易云。一陰一陽之
謂道。繼之者善也。成之者性也。書云。上帝降衷于下
民。若有恒性。詩云。天生烝民。有物有則。民之秉彝。好
是懿德。是天其道ヲ下民ニ分配メ以テ其性トナ
スノ明徴ニメ。經傳ニ替々タル者ナリ。聖人果メ
天道ヲ云ザルカ。又果メ性ヲ云ザルカ。天道果メ

人道ト異ナルカ。嗚呼東洞タ、醫道ヲ誣ヒ醫法
ヲ罔ルノミナラズ。更ニ聖言ヲ誣ヒ天道ヲ罔ル
ニ至ル。ソレ子思ハ孔子ノ孫ニメ。曾子ノ學ヲ傳
ヘタレバ。固ヨリ夫子ノ真面目ヲ知ル者ナリ。而
ノ其中庸ノ一書。性ト天道トヲ辨ズルヲ明晰詳
審ニメ至ラザル。取ナシ。而メ孟子ハ之ヲ祖述シ
タマフ者ニメ。性善ノ說孟子始テコレヲ發スル
ナド云ベキトニ非ズ。此則天地自然ノ道ニメ。易
ニ始リ。詩書ニ見ル、者。照々赫々トメ日月ノ如
シ。夫子ハサラナリ。子思孟子オノノ、之ヲ祖述

シ玉フナリ。東洞モシ實ニ性ト天道トヲ云フ者
ヲ惡マバ。論語ヲ辯駁シ。易詩書ヲ誹議シ。中庸ヲ
擯斥セズ。孟子ヲ非セントスルノ一二何ゾ太
甚キ也。東洞原不學ニメ義理ニ晦シトイヘドモ。
頗ル人ヲ凌グノ豪氣アリ。其臭味相似タルヲ以
テ。徂徠ガ餘唾ヲ甜ンメ。之ヲ舐リ。孟軻子ヲ蔑視
シ。剰子貢ガ言ヲ誤解シ。性善ヲ議セントス。ア、
何ゾ其愚ナルヤ。諺ニ所謂盲者腹蛇ニ畏ストハ
渠ガ如キ者ヲ云フナルベシ。又曰。性ト天道トハ
理ニメ心ニ得ルノミ必イフベカラズ。故ニ孔子

モ罕ニノ玉ヒ。子貢モ得テ聞ベカラスト云ヘリ
トハ。誤ニ誤ヲ重子タリ。此言ハ夫子ノ利ヲノ玉
フワケヲ記シタルニテ。命ト仁トヲ罕ニノ玉フ
トヲ云フニハ非ズ。言フ心ハ。利ハ夫子ノ、玉ハ
又所ナレトモシ罕ニノ玉フ時ニハ。必ズ命ト與
ニシ。仁ト與ニスト云フ義ニテ。徒ニハノ玉ハ又
ゾト云フヲナリ。東洞モシ朱元晦ノ解ニヨリテ
此說ヲナスト。罕ニノ玉フモ亦ノ玉フナリ。必イ
フベカラザルノ謂ニ非ズ。モシ聖人ニノイヒ。聖
人ニ非ルヨリハ言フベカラズト云ハ。固ヨリ

教ト爲ベカラズ。韓昌黎イヘルトアリ。曰ク吐辞
爲經。擧足爲法ト。罕ニノ玉フ者ハ辞ヲ吐ニアラ
ザルカ。經言ハタ教トナラザルカ。東洞モ亦自イ
ヘルニアラズヤ。夫教者教常人之事也。常人不能
爲訓。非教也。ナンゾ其言ノ牟盾セル思ハザルノ
甚キナリ。

東洞ハ秀庵ガ罪人ナリ。椿樹ハ東洞ガ罪人ナリ。
今ノ疾鑿ハ椿樹ガ罪人ナリ。今ノ庸鑿ハ今ノ疾
鑿ガ罪人ナリ。イデヤ其故ヲ云ハン。夫善國ヲ治
ムル者ハ。宜ク天下ノ英才ヲ得テ之ヲ教育シ。其

職ヲ繼テ永ク後世ヲ治メシムベシ。堯ハ是ヲ以
 コレヲ舜ニ傳ヘ。舜ハ是ヲ以コレヲ禹ニ傳ヘタ
 リ。善鑿道ヲ明ニスル者ハ。宜ク天下ノ英才ヲ得
 テ之ヲ教育シ。其訓ヲ傳ヘテ永ク後世ヲ鑿セシ
 ムベシ。上工鑿鑿東洞遺稿曰古語云上工鑿々其
 次鑿疾我其次者也是雖不知據
何書其言確トハ之ヲ謂也。古者史家列之方技ヨ
 實故取之。リ。ツヒニ天下ノ英才ヲシテ。鑿道ヲ賤ンゾマナ
 バザラシムルニ至ル。悲矣哉。ヒトリ香川秀庵只
 此ニ感慨メ。自ラ一本堂ト稱シ。孔孟ノ教ヲ祖述
 シテ。以テ聖賢儒中真鑿ヲトナヘ。真鑿ノ道方技

ニアラズシテ天下ノ大業ナルヲ知シ。後世
 ノ英才繼テ起テ。真鑿ノ道ヲマタ後世ニ傳ヘ。永
 ク後世ノ鑿ヲ鑿セシメントス。方此時也。英才ノ
 鑿出丁アラバ。宜ク繼テ起テ之ヲ折衷シ。益此道
 ヲ中庸ニ歸セシムベキヲ。東洞ソノ後ニ出テ自
 疾鑿ニ任ジ。ハルカニ二千有餘年ノ上ニ派サカホリ
 テ。以テ天下後世ノ疾病ヲ鑿セントス。英才ト云
 ハザルベキニハ有子ト。惟惜ラクハ不學ニノ道
 ニクラク。マタ其職ヲ方技ニ屬シ自コレヲ賤業
 ナリトセリ。嗚呼天下後世ノ英才ヲノ。鑿道ヲ賤

ンメマナバザラシムルニ至ル者ハ。東洞ノレワ
 ザ也。余故ニ曰東洞ハ秀庵ガ罪人ナリ。夫疣疔瘡
 疾ノ胎染スル者ニ至テハ。輕粉水銀ノ類。其法ヲ
 得ルニ非レバ除ク丁能ハズ。東洞能用之。得其法。
 ハジメテ不治ノ疾ナカリキ。村井椿樹ハ東洞ノ
 高足弟子ニメ。人人大ニ稱賛スル所ナリ。然ルニ
 渠ガ和方一萬方薰藥部ニ。輕粉水銀朱辰砂ヲ
 用ウル法ヲ記メ却テ其法ヲ失ナフ。故ニ胎染ス
 ルノ疣疔瘡疾ニ至テハ。之ヲ除ク丁能ハズ。其所
 著二千年眼目編扁鵲傳ヲ説ル所ニ。黴瘡ノ遺毒。

傳尸ノ勞瘵。或ハ血脈ノ癘病。云々此三胎毒ノ如
 キハ。十ニシテ七八ハ治スル丁ナシ。コレ父母ノ
 精血ソノ躬ヲ成セバナリト云レタリ。嗚呼椿樹
 スラ萬病一毒ノ義ヲ誤リ。枕ハ病毒ヲニツニス
ル者ト謂ベシ其一ツ
 一ツバ父精母血ノナス所ニメ不治ノ症トナシ其
 一ツツバ父精母血ノ醸成セルノ毒ニメ可治ノ症
 トナス嗚呼不幸ニメ二千年眼目編東洞未ダ死
 セザルノ前ニ成ズメ其校閱ヲ歴テ其非ヲ正サ
 レス猶今ニ至リテ盲醫ヲ惜夫噫 不治ノ症アリ
 疑ナキ丁能ハザラシム惜夫噫 不治ノ症アリ
 ト言ハ。後世何人が廢疾ヲ起ス丁ヲ得ン。今ノ
 疾鑿等不治ノ症ヲ云者アルハ。椿樹コレガ偏ヲ
 ナセリ。故ニ曰椿樹ハ東洞ガ罪人ナリ。且聞椿樹

ガ古鑿方ヲ肥後ニ唱フルトキ。貧窮ニメ累日煙
ヲ擧ル丁能ハザルニ至ル。親戚非ナリトイヒテ
其術ヲ易シメントスレ共。椿樹斷然トメ餓死ヲ
以テ誓フテ苟クモ屈セス。又疾ノ病ナル時ニ當
リテ。其子ヒソカニ藥方ヲ轉ズ。椿樹之ヲ覺リテ
大ニ怒。藥ニ常則アリ何妄リニ改メントイヘリ
レトゾ。今ノ疾鑿ハ皆其操ヲ失ヘリ。故ニ曰今ノ
疾鑿ハ椿樹ガ罪人ナリ。素問曰。毒藥攻邪。五穀爲
養。五果爲助。五畜爲益。五菜爲充。今ノ疾鑿ハナホ
コレニヨレリ。今ノ庸鑿ハ養ヲナス所以ノ穀肉

果菜ヲ禁絶シ。攻ル所以ノ毒藥ヲ以テ却テ之ヲ
養益セントス。故ニ曰今ノ庸鑿ハ今ノ疾鑿ガ罪
人ナリト。

孟軻子舜ヲ稱メ曰。君子莫大乎與人爲善。コレス
ナハチ知ヲ致ノ物ヲ格ラシムルノ道ナリ。舜明
庶物トハ之ヲ謂ナリ。能此道ニ由ラズレテ。天下
ヲ治ントスル者ハ民ヲ賊スル也。ヨク此道ニ由
ラズメ。鑿ヲ行ントスル者ハ人ヲ賊スレナリ。思
ハズンバアル可ラズ。夫與人爲善。君子ノ大ナリ
トスル所ニメ。世ノ鑿人方ヲ人ニ傳ウルコヲ好

マズ。甚キニ至テハ家ニ秘シ禁方ト稱シ。弟子ニ
ダモ傳ヘザルモノアリ。况ヤ他人ニ於テヲヤ。是
與人爲善トヲ好マザルガ故ナリ。是方ヲ權メ名
ヲ貪ルナリ然ラズンバ利ヲ貪ルナリ。夫天下蒼
生ノ疾病ヲ救フトハ。一人ノ能爲ベキニ非ズ。將
何ニヨリテカ永ク後世ノ疾病ヲ救フトヲ得ン
ヤ。禹思天下有溺者由己溺之也。稷思天下有飢者
由己飢之也。ソノ天下蒼生ヲ憂フルト如此急ナ
リ。鑿モ亦シカリ。故ニ其疾病ヲ救フニ急ナルト。
何ゾ方ヲ權シテ名利ヲ貪ルニ遑アラシヤ。唯一

方モ得ル所アラバ。則之ヲ人ニ傳ヘ之ヲ書ニ筆
シ。一日モ速ク之ヲ天下ニ廣メ。一入モ多ク之ガ
疾病ヲ療ゼシメ。人ト善ヲ爲サマク欲ス。今彼禁
方ヲ云者。其父病アリテ他ノ鑿ヲ援ンニ。其鑿モ
亦禁方ヲ處セントヲ慮ハカリ。其方ヲ問ズ其證
ニ管セズ。タゞソノ甘酸苦辛ノ味ヲノミ嘗テ。可
ナリトメ之ヲ父ニ進ンカ。抑方證相對スルヲ明
ニシテ而後ニ進ンカ。所謂禁方ト云者。未ダ方證
相對スルヤ否ヤヲ知ズンバ。己コレヲ服スルダ
モ猶安シトセズ。况ヤ父ニ進ムルヲヤ。是モシヤ

醫言
非命ニ死スルコト有シカト恐ルレバナリ。其シ
カルヲ知テ。猶其方ヲ吝嗇シテ人ニ傳ヘザル者
ハ。蓋シオモヘラク方ヲ人ニ傳フル時ハ。我伎倆
コ、ニ盡テ却テ我ヲ招クノ病客モ。亦隨テ少カ
ランコトヲ恐ル、カ。不然則己ガ術拙ウメ方證相
對スルコトヲ得ザルヲ以テ。禁方ト云テ謗ヲ避ル
也。是名ト利トヲ貪ルノ謀ニ急ニメ。其疾病ヲ救
フニ遑アラザル也。惟シカアルノミナラズ。マタ
非命ニ死スルノ人ヲ觀ルニ遑アラザルニ至ル。
不仁モ太甚矣。夫東洞ハ疾醫ヲ改復スルノ者ニ

シテ。古今ノ英才。苟モ方ヲ權スルノ小人ナラン
ヤ。然レトモ健殊録答。霍臺書ニ。近者得一禁方ト
云ハレタルハ何ゾヤ。是言ニ得ズト云者ニシテ。
深ク尤ムベキ者ニハアラ子ド。今ノ疾醫猶禁方
ヲ言者アルハ。東洞之ガ偏ヲナスノ謗ヲマヌカ
レズ。

鑿鑿談終

附錄

懷故東洞翁

三千年外越人逝九十年前為則興惡疾流傳何足
畏病源無二確應徵易明易行自為法可繼可垂全
在繩四海九州鑿幾許不知後進亦誰能

述懷

越人雖邈矣一言猶尚彰仲景是乎否只信存其方
双劍埋土下鉛刀漫競銑抑亦何意也君不見

大日本

皇猷昌奕在多名劍于莫亦失光其尤傑然者一曰一

本堂聖賢儒中鑿孔孟是憲章奉崇仁與義六經自
煌々雖能明鑿道流百世之芳憾踈治疾病猶未得
升堂一曰東洞叟是爲疾鑿望能法越人言能徵仲
景方家貧無升儲守死誓神明雖能嘗險阻節操凌
冰霜未曾知天道可惜不彬々假今論得失磊砢此
二人二人亦已逝渺茫雲漢濱紫氣不復見天道今
將湮天道今將湮天札滿天下天道無不復復之何
爲者燈下繙憤典慷慨淚如瀉

醫醫談成矣將上樓以吾不專用和方有誹泝二神之古之言者今
爲辨附卷尾云イトモ可畏イトモ奇シキニヤ大已貴命少彥名
命二柱ノ神ハ天神ノ靈ニヨリ天ノ下萬國ヲ治メ玉ヒ醫方ヲ
定メ玉ヒシ神ナレバ天ノ下萬國ノ醫方ハ皆此二神ノ方ナレ
バ治療ニソミテ之ヲ行フノ道ハ二ツアルベカラズ其真中
ノ正シキ一ツノ道ニダニヨリテ醫ヲ行フ時ハ漢土ニテ選メ
ル藥方ヲ用フルモ紅毛ニテ選メル藥方ヲ用フルモ即我中國
ノ法ニメ二神ノ方ナリ凡爲天下國家有九經所以行之者一也
トハ之ヲ謂也イカデ偏ルヲセシイデヤ天ノ下ハ中國モ外
國モ固ヨリ同土界ナレバ漢モ我國也紅毛モ我國也オヨソ草
木金石禽獸蟲魚彼土ニ空シキ者ハ彼ニ産シ此土ニ空シキ者
ハ此ニ産シ皆此民ヲ育ナフ爲ニメカケマクモ畏ユキ天神ノ
靈ノフユニヨリテ産スル所ナレバ假令一箇ノ蟲トイヘ斥空
ウスベキ者ニ非ズ一方ノ藥トイヘ斥空ウスベキ者ニ非ズ然
ハアレド天ノ下ノ品物極メテ多ケレハ一人ノ力ニメ盡ク取

術テアゲ用フルコ能ハズ藥方盡ク聚得テアゲ用フルコ能ハ
ズ故ニ醫ヲナス者ハオノモリ其用ヒ得タル所ノ方ヲ取テ
之ヲ用ヒテ疾ヲ療スル時ハ天ノ下ノ品物自ラコトバクアゲ
用フルコヲ得テ空シキコトナキコトワリ也余仲景ガ傳フル所
ノ方モ亦之ヲ取テ用フルハ是ガ爲ノ故ニシテ是真ニ天神ノ
靈ヲ奉ズル也真ニ二神ノ定メ玉ヒシ古ニ沂ル也近ゴロ病ヲ
治ル物萬國各其國中ニテ事足レリト云者アリ敢テソノ國中
ニテ足ラズト云ニハ有子ド若之ヲ國中ニノミ取リテ足リト
ノ漢紅毛ヨリ取テ愚ナリト云ハハ是神靈ヲナミスル也我大
皇國ヲ孤ニスル也如此者ハ論フニモ足ラザル也抑種々ノ品
物外國々ヨリ我中國ニ持來ラズンバ如何セントイハハ我詳
ニ論ラヒアリ有所憚不疣此安政乙卯年十二月泰臨誌

